

# 東京後楽ロータリークラブ週報

The Rotary Club of Tokyo Koraku Weekly Report



ロータリーは  
世界をつなぐ

「3Cで、新たな時代を創ろう」  
～Chance・Challenge・Change～  
「ロータリーは世界をつなぐ」

2019年～2020年度 会長  
中村 才博

2019年～2020年度 国際ロータリー会長  
マーク・ダニエル・マローニー

ロータリー親睦活動月間

2020年6月23日発行 (No.944)

第944回 例会  
「クラブフォーラム」

## CLUB NEWS

### ◆ 6月度定例理事会報告(6月2日 WEB 開催)

- 例会開催の件 (6月16・23・30日)
    - 16日・・・「近況報告会」
    - 23日・・・「未定」
    - 30日・・・「ハンマータッチ」
 ※体調などの事情で欠席の方のために Zoom による同時中継をする、例会開催方法はホテルのガイドラインに従う。
  - 休会に伴う会費返納の件(東京小石川 RC50 周年登録料含む)
    - 東京小石川 RC 登録料と決算後に残った会費を次年度の年会費から差し引く。
  - 退会希望者の件
    - 酒井会員、小出会員の6月末付けでの退会が承認された。
  - 新型コロナウイルス感染症に伴う支援事業の件
    - ・6月3日に小石川医師会へマスク2,500枚を贈呈する。
    - ・地区のフェイスシールド寄贈支援に寄付する。
  - 会員名簿作成の件
    - 本年度予算の中から会員名簿を作成する。
  - 事務局業務の件
    - 6月10日までは、テレワーク対応。それ以降は、混雑時間を避け、フレックス勤務とテレワークを併用しながら、段階的に通常業務への移行を行っていく。
  - 親睦活動委員会 親睦旅行、誕生日プレゼントの件
    - 親睦旅行・・・中止。
    - 誕生日プレゼント・・・日持ちするものへ変更し、6月16日から贈る。(本多 記)
- ◆ この度中村会長と本多幹事は、ポール・ハリス・フェローとして、其々 \$ 1,000 の寄付を致しました。

## MEMBER'S NEWS

◇ 石毛会員は、2020年1月17日～21日の日程でチームポリオジャパンとして「インドでポリオワクチンを投与しよう」という活動に、参加されました。その活動の記事を「たった2滴のワクチンがあつた時あれば」と題して、『ロータリーの友』6月号42ページに寄稿されております。

### 前回例会

第943回例会

「近況報告会」

### 出席状況

第943回例会

出席 30名 欠席 15名  
ビジター 0名 ゲスト 1名  
アオ・チュンミン君(米山奨学生・WEB参加)  
出席率:78.57% 前例会修正後:80.49%

### ニコニコBOX

中村会長:3ヶ月半ぶりに、皆様にお会い出来、ニコニコです。誕生日のお祝いも有難うございます。戸部会員:久しぶりに皆さんの元気な顔を見ることが出来ました。お元気でなによりです。金子会員:元気な皆様の顔を拝見し、安心しました。:主人の誕生日祝いを有難うございます。藤田会員:お誕生日のお祝い、有難うございました。榎戸会員:妻の誕生日に際し、久々の笑顔の話題のもと“プレゼントを頂き”ありがとうございます。尹会員:お誕生日プレゼントを頂き、有難うございます。住田直会員:誕生日のお祝いを頂き、有難うございました。コロナに負けずがんばりましょう!

ミリオンマイルズ:2,647円

本年度合計:793,892円

### 例会案内

6月30日 「ハンマータッチ」

7月7日 「新年度初例会」

TEL: 03-5940-3355 FAX: 03-3947-4010 E-Mail: koraku@mint.ocn.ne.jp

例会 毎週火曜日12時30分 / 東京ドームホテル 電話: 03-5805-2111

事務局 〒112-0014 文京区関口2-10-8 藤田観光(株)別館内

会長 中村才博 / 幹事 本多信行 / 会報委員長 木津久徳

URL <http://www.korakurotary.com>

## 第938回 例会卓話「和楽器」

ミカド 香奈子 氏(篠笛奏者 望月太喜若)

日本の民謡、端唄お座敷などで歌われたり演奏されたものを紹介しようと思います。民謡と言いますと何となく想像されるのは盆踊りでかかっている炭坑節とか相馬馬子唄とか花笠音頭とかで有名な民謡はご存じだと思います。こういう民謡は、口伝で傳承されてきて現在に残り歌われています。この歌を作ろうと思ひ紙に向かって書いて作詞するのでは無く、生活をしながら、労働歌もあり子供や赤ちゃんに子守唄を歌ったりとか、海に出て漁をしてその時にみんなで頑張るぞという掛け声とともにエンヤーとかそういう時に生まれてきた歌です。仕事をしながらお祝いの時にみんなが集まって、お酒が入った時に歌が生まれるんです。それがみんなに浸透して不特定多数の方々に歌われそれが今でも残っているというもので昔はラジオもテレビもない時代です。例えば出稼ぎに行つてその土地での歌を覚えてお国に帰った時にその歌がその土地の歌と合わさつてまた新しい歌が生まれるという感じで受け継がれてきたものが民謡でございます。明治ぐらいから民謡とはっきり言われるようになり、ラジオやレコードができ始めてから民謡が口伝でなく電波で送られました。この人が歌う黒田節は最高にいいねとかになるとその人の持ち歌になつたりレコードがたくさん売れたとしたら曲が全国的に広まつてみんながそれを知るという事になり生まれてきました。民謡は口伝でしたので統一感がなく昭和の中ごろに始めて五線譜にして歌詞を付けて本を出したことが有り、それから統一感が出てきたかなという事になりました。昔の歌謡曲はだいたい民謡があんこになって入っています。演歌にも結構民謡が織り込まれていたと思います。その五線譜の本を作つたのが私の祖父でして、尺八奏者でミカド天風という名前で、大変その本が全国に売れたそうです。皆さんが民謡を習うときには教科書代わりに使われました。今でも皆さんから問い合わせが多いのですが絶版になっています。それではお話ししながら歌いながら進めていきたいと思ひます。母は歌い手で踊りもする人で昔から家の中では三味線が鳴り尺八が鳴り生活の中で民謡が鳴っていたという環境で育ちました。家の中で普通に民謡が流れていたんです。お祝いの席など有名なのは宮城県のさんさ時雨という民謡がありまして各地にお祝いの歌があります。伊勢音頭と言つて三重県民謡お伊勢さんの民謡これはお伊勢参りに誰もが行きたいと思ひがありそこで各地からお伊勢さんに行つたそうです。そこで歌われていた伊勢音頭を聞いて覚えてお国に帰つたというもので、荷物にならない伊勢土産と言われていたそうです。伊勢音頭を歌います。民謡と言ひしても全国各地にありましてその数5万から6万ともいわれています。次に新土佐節これは民謡と言ひしてもチョット色っぽいです。民謡ではなく端唄に繋がりまして、民謡は生活の中からですが端唄は生活の中から生まれなかつたんです。それはなぜと申しますとちょっと意味ありなような内容の歌なんです。昼間で酒も入つてませんがざっくばらんに聞いて頂きたいんですけども、男女のヒメゴトとかそういう事を歌っているものなんですね、夫婦でない方ですね、言葉が難しいです。



新土佐節  
へきりぎりすは 羽で鳴るかよ  
蟬や腹で鳴く 私や あなたの胸で泣くよ  
そうだそうだ まったくだよ  
へ私ばかりばかりばかり泣かせておいて  
泣くのが 女の手だなんてよ  
そうだそうだ まったくだよ  
へ雷さんは 粋な方だよ 戸を締めさせてよ  
二人しつぱり ぬらした通り雨よ  
そうだそうだ まったくだよ

新土佐節という端唄の分野も歌われています。

日本の音楽の面白いところです。お座敷などで芸者さんが良く歌われます。花や自然の綺麗なものを歌っていますがその中に色々なことが含まれ想像力を豊かにして頂けると楽しい歌になります。ぜひお楽しみください。4月19日(日)川崎産業会館・サンピアン川崎でミカド会の発表会ありますので是非お出かけください。